梅屋庄吉認知度等調査結果【担当課：文化振興・世界遺産課】

（アンケート期間）　令和6年1月15日～1月28日（14日間）

（調査の目的）

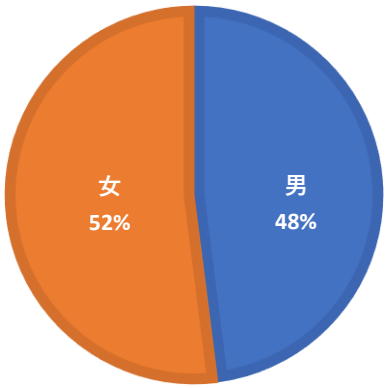
長崎県出身の実業家・梅屋庄吉の県内での認知度を調査し、これまでの取組の検証と今後の施策に役立てるもの

（調査対象）ながさきWEB県政アンケート全モニター338名

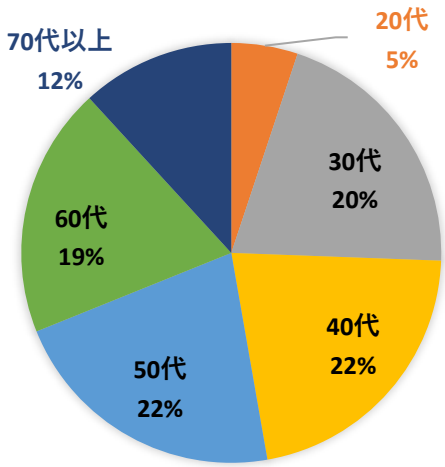
（回答状況）回答者　254名(回答率75.1%)

※小数点以下第1位を四捨五入しているため、100%にならない場合があります。

（回答の属性）

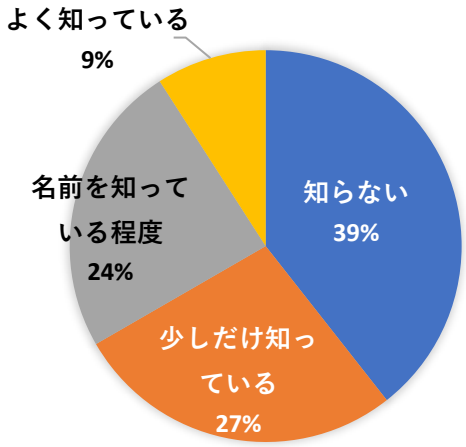


区分	人数	構成比
男	123	48%
女	131	52%
計	254	100%



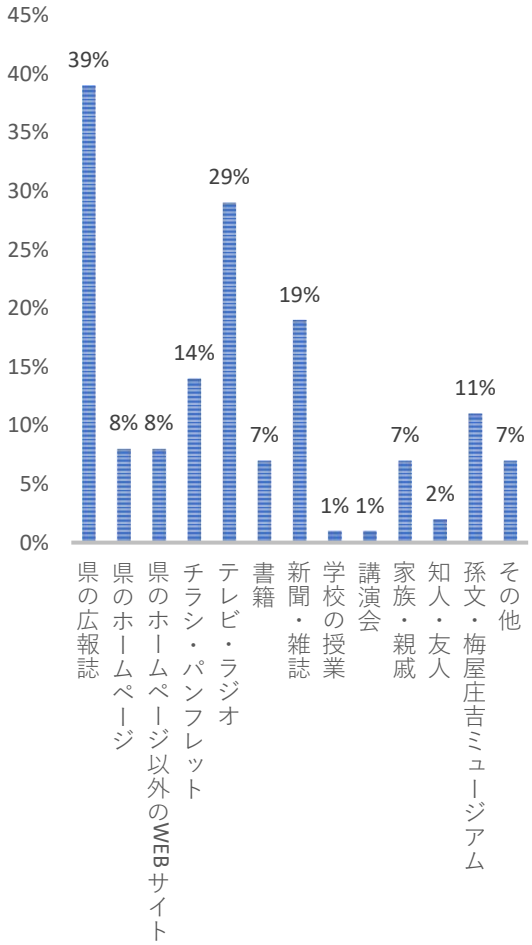
区分	人数	構成比
10代	0	0%
20代	13	5%
30代	52	20%
40代	55	22%
50代	55	22%
60代	49	19%
70代以上	30	12%
計	254	100%

Q1） 中国辛亥革命の指導者・孫文を物心両面で支えた長崎県出身の梅屋庄吉のことを知っていますか。



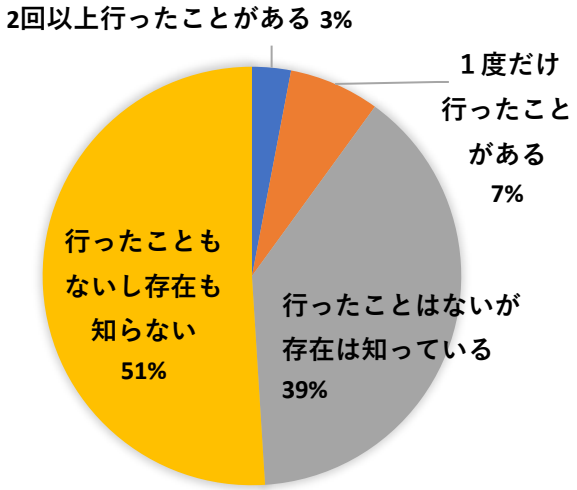
選択肢	回答者数	構成比
1 よく知っている	23	9%
2 少しだけ知っている	69	27%
3 名前を知っている程度	62	24%
4 知らない	100	39%
計	254	100%

Q2） Q1で「知っている」と回答された方にお尋ねします。 どこで梅屋庄吉のことを知りましたか。（複数回答可）



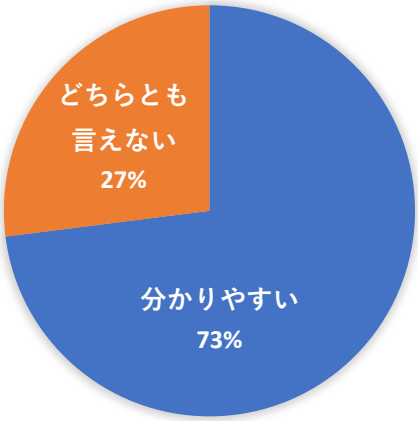
選択肢	回答数	割合
1 県の広報誌	84	39%
2 県のホームページ	18	8%
3 県のホームページ以外のWEBサイト	17	8%
4 チラシ・パンフレット	30	14%
5 テレビ・ラジオ	63	29%
6 書籍	16	7%
7 新聞・雑誌	41	19%
8 学校の授業	2	1%
9 講演会	3	1%
10 家族・親戚	16	7%
11 知人・友人	4	2%
12 孫文・梅屋庄吉ﾐｭｰｼﾞｱﾑ	24	11%
13 その他	16	7%
回答対象者	214	—

Q3）「長崎近代交流史と孫文・梅屋庄吉ミュージアム」へ行ったことがありますか。



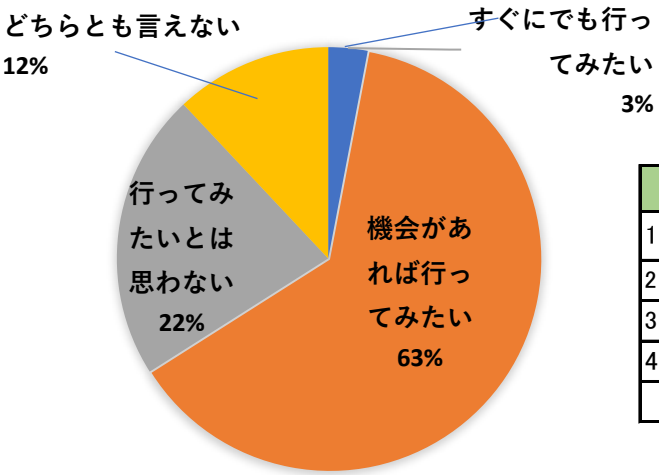
選択肢	回答者数	割合
1　2回以上行ったことがある	7	3%
2　1度だけ行ったことがある	19	7%
3　行ったことはないが存在は知っている	99	39%
4　行ったこともないし存在も知らない	129	51%
計	254	100%

Q4）　Q3で「行ったことがある」と回答した方へお尋ねします。 ミュージアムの展示内容は伝わりやすかったですか。



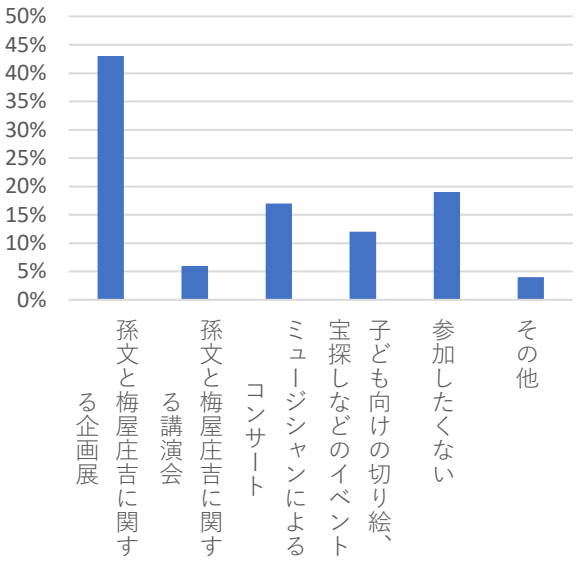
選択肢	回答数	割合
1　分かりやすい	19	73%
2　分かりにくい	0	0%
3　どちらとも言えない	7	27%
4　その他	0	0%
回答対象者	26	100%

Q5）　Q3で「行ったことがない」と回答された方にお尋ねします。今後、ミュージアムに行ってみたいと思いますか。



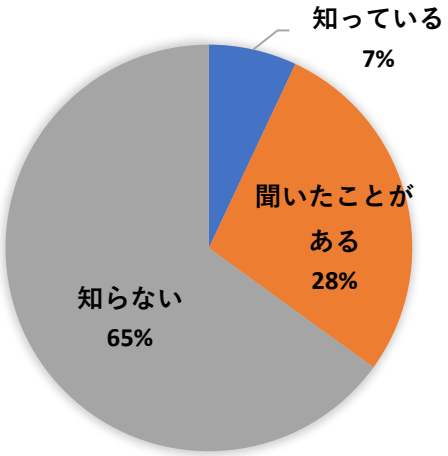
選択肢	回答数	割合
1　すぐにでも行ってみたい	7	3%
2　機会があれば行ってみたい	157	63%
3　行ってみたいとは思わない	55	22%
4　どちらとも言えない	30	12%
回答対象者	249	100%

Q6　今後どのようなイベントがあれば参加したいと思いますか。（複数回答可）



選択肢	回答数	割合
1　孫文と梅屋庄吉に関する企画展	108	43%
2　孫文と梅屋庄吉に関する講演会	16	6%
3　ミュージシャンによるコンサート	42	17%
4　子ども向けの切り絵、宝探しなどのイベント	31	12%
5　参加したくない	49	19%
6　その他	9	4%
回答対象者	254	―

Q7）長崎県は、辛亥革命はじまりの地である中国湖北省と友好交流協定を締結していることをご存知ですか。



選択肢	回答数	割合
1　知っている	19	7%
2　聞いたことがある	71	28%
3　知らない	164	65%
計	254	100%

Q8）孫文と梅屋庄吉に関する県の取組についてご意見やご要望がございましたら、ご自由にお書きください。

（主なご意見）

・県の取り組みとして、長崎市外の地区でも上記内容の紹介イベントを開催。直接的ではなくても、関連しそうな内容を見つけだして紹介し、まずは、県内協働の方向に動かしてみる。次の段階で県外との連携。

- 演劇などで見ると自然に理解を深めて忘れられない名前になると思います。
  またその企画そのものに関わる人数が多いほど認知度は広まるので、そういった意味でも演劇、市民ミュージカル、大村室内合奏団の演奏などアート活動も交えた企画は有効だと思います。また、キャラクター化してグッズを作るのもいいのかもしれません。

- 最近の長崎県の新規開業ラッシュで、そちら側に注目がなされているなかで、それらと長崎県の歴史や活躍した人物についてマッチングさせたイベントだったり展示、講演などを行ってもいいのではないでしょうか。
- 孫文や辛亥革命そのものおよびそれらに対する日本や日本人（梅屋庄吉）の関わりについて、中国の国民の認知度やとらえ方、学校教育における取り上げ方など、中国における評価を聞いてみたい
  また、日中関係が疎遠になっている現在、日本国内および中国からの修学旅行生の受け入れを積極的に行い、戦前から行われてきた日中間交流の認識を深めることが、相互理解につながっていくのではないか。
- 中国との友好協定を結んでいる事や、長崎は中国と深く関係している事をもっとアピールして和平に取り組んでいる事を広めて欲しい。

- 長崎という土地に愛着を深めるためにも、ゆかりのある偉人についてまなびたいなとおもいます。
  市役所の待ち時間、こどもの健康診断などでアピール動画をテレビとかで流したりしてはどうでしょう。暇だから見ると思います。

- 長崎市内まで足を運ばないと展示が見られないので、巡回やホームページなどで閲覧できるといい。(ホームページを見たことがないので、もしかして見られるのかもしれませんが・・・)

- 定期的なPRを行っていくべきだと思う。繰り返すことで認知度が上がっていくのでは。

- 梅屋庄吉が現在の生活にどんな影響を及ぼしているのかわからない。
  例えば、梅屋庄吉がいなかったら現在の生活はどうなっているのか、様々な仮説を立ててみると関心が持てるかもしれない。
- 梅屋庄吉に限らず、シーボルトやグラバーなど長崎と世界の橋渡しをした人物について県民に知らせることは大事であるが、彼らが世界の中でどのような存在・評価を認められているかが気になるところです。長崎だけで知らしめるものでなく、こうした人物が世界的にどのような活躍をしたかということは、長崎の果たす世界的・歴史的な役割にも結び付くものであると思います。現在の長崎は西の果てという地理的なアドバンテージはあるものの、世界に長崎をアピールできるよさに溢れているかと言えば疑問です。国内においても郷土長崎を誇れるかという視点で見れば厳しいものがあります。長崎で生活してよかったと実感できるようになればいいですね。

- 歴史は好きな方なのですが、孫文と梅屋庄吉に関しては長崎にゆかりがあるのにあまり深く知りませんし、学校でも学ぶことがありませんでした。導入としては歴史ドラマ等の映像が効果的かと思います。私は大河ドラマ等をきっかけに、書物とか講演会とかでもっと深く知りたくなるので。
- 例えば学校の授業の体験としてミュージアムに訪れる授業や、有名漫画家さんにショート漫画を描いてもらって無料配布(配信)して理解を深めてもらう機会を作る動機付けが必要ではないかとおもいます。
- どうせやるならもっと周知徹底すべきです。高齢者はそういう梅屋庄吉や孫文は歴史などで知っているが、若い世代にどれだけ知られているかは問題、若い世代に向けても広報活動を行うべきです。
- 梅屋庄吉ミュージアムのホームページを見たが、紹介内容が少なくどのような人物と施設かよく分からなかった。この場所のみでは訪問する魅力が少ないので他施設との複合的なイベントなら訪問すると思う。長崎市旧香港上海銀行長崎支店記念館は建物が他施設とは違い建物が珍しいので、コンサートやイベントなど一般の人でも催し物が出来る事は大変いいと思います。

- あまり詳しく知らない人が多いと思うので、PR活動が大事だと思う
- 子供連れて参加出来るイベントを兼ねるともっと認知度も上がると思います。子供たちにも教えてあげたいです。
- 講演会と子供にも親しみやすい観劇などあれば、参加してみたい。
- 県北地区との関りがほとんどなく興味が持てない
- 大村市内で企画展などがあったら見にいきたい。
- 佐世保のほうで講演会があれば行きたい
- 壱岐出身の梅谷トクさんについても触れて頂き、壱岐もPRして欲しい。
- 地元テレビ局と長崎県でタッグを組んで特番製作をしてもいいのではと思う。
- 自分も含めて周囲でも知る人は少ないのが現状です。
  全国版のテレビ番組などで取り上げてもらえるといいかと思います。
- ローカル番組でのTVがわかりやすくインパクトあると思います。
- 普段一番見聞きするメディアはテレビなので、短い番組であれば見てみたいと思う。また、県の広報誌も全家庭に配られるものなので、それに載っていれば読むと思う。
- 近隣国との有効関係を維持するためにも引き続き取り組んでほしい
- 県の取り組みだけでは、まだまだ認知されにくいと思う。官民連携して認知していく必要がある。